

＊地域福祉計画より（全9回）

## 「おこねてー！地域の支え合ひ」

### 【第1回 第3次地域福祉計画】

かつて近隣に住む人同士の助け合いは、日常的に行われていました。日用品の貸し借りや届け物を預かったり、お裾分けしたり、冠婚葬祭の手伝いや急病人が出たときの世話など、近隣の協力や助け合いは、至る所で目にされました。ところが、近年では、かつてあった地域のつながりに大きな変化が生じ、希薄化したと言われています。

市が3月に策定した「第3次地域福祉計画」は、住民同士の協力や支え合いの重要性に着目し、**地域で暮らす人とのつながりを再構築**することを目的としています。

そして、これから目指す地域の未来像として、「互いに支え合う地域」「ふれあい・交流のある地域」「一人ひとりを認め合える地域」を掲げています。

このコーナーでは、これから計画で掲載されている地域の活動事例を紹介していきます。

住み慣れた家や地域で暮らし続けるためには何が必要か？まずは、地域について話題にしてみてください。そして、地域でできることは何か、考えてみませんか。

～第2回に続く～

☎ 社会福祉課 ☎（484）6135



こうほう佐倉 2016年（平成28年）10月15日号掲載

＊地域福祉計画より（全9回）

## 「おこねてー！地域の支え合ひ」

### 【第2回 地域を歩こう。あいさつしてみよう。】

地域の支え合いについて考えるシリーズ、全9回連載の第2回目をお届けします。

生活習慣病の原因のひとつに運動不足があります。健康づくりのために、歩くことから始めてみませんか。

時間をみつけて歩く中で、見えていなかった風景を発見することもできるでしょう。そして、地域のかたとあいさつをしてみてもどうでしょうか。そこから、人との出会いやふれあいも生まれます。それは、毎日の暮らしを豊かにし、町の雰囲気を変えることにもつながると思います。

（事例）あいさつから始まる地域づくり

根郷地区では、民生委員・児童委員を中心に小学校で「朝のあいさつ運動」が行われています。近隣住民のかたがたが、学校周辺の清掃を行い、登校してくる児童に朝のあいさつをしています。

あいさつをすることで、子どもや保護者に顔を覚えてもらい、登校時以外にもあいさつが交わされる関係が構築されていきます。また、地域で子どもを見守ることで、子どもたちにも地域の中で育てられているということを感じてもらい、生まれ育った「ふるさと」への愛着や地域を大切に作る気持ちが育まれています。

～第3回に続く～

☎ 社会福祉課 ☎（484）6135



こうほう佐倉 2016年（平成28年）12月1日号掲載

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合い」

【第3回 気軽に集おう】

かつて隣近所同士の協力は、いたる所で行われていました。ところが近年では、「顔は知っているけど話したことはない」「隣人の顔を知らない」という人も増えていきます。



「地域とのつながりを持つ機会がない」というかたは、まずは気軽に参加できる場に出かけてみてはいかがでしょうか。

健康づくりや趣味の活動をしているサークルもたくさんあります。おしゃべりする機会や相手が増える中で、日々の暮らしにも笑顔が増えるいくつかではないでしょうか。

（事例）自由参加のラジオ体操

西志津地区では毎朝、ラジオ体操が行われています。地域の交流の場として長年続けており、1日約200人超、年間で延べ6万人以上が参加しています。

夏休み中は、小学生が朝礼台の上でお手本として体操します。子どもの顔を地域のかたに覚えてもらう機会になるとともに、子どもの積極性を養うことにもつながっています。

毎朝、顔を会わせる中で交流が生まれ、ラジオ体操以外の場にも、その交流が広がっています。

～第4回につづく～

☎ 社会福祉課 ☎（484）6135

こうほう佐倉 2016年（平成28年）12月15日号掲載

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合い」

【第4回 声を掛け合おう 誘い合おう】

地域の支え合いについて考えるシリーズ、全9回連載の第4回目をお届けします。

現在、高齢者が増加しています。高齢者にとって、つながっている人や見守ってくれる人が身近にいることは、大きな支えになります。地域全体でつながり、見守り合う関係を作ってはどうか。

そのためには、まずはどんな人が同じ地域に住んでいるのか、お互いに把握することから始めてはいかがでしょうか。例えば、月に一度の「お茶会」や「おしゃべり会」を地域で催してみるのもいいでしょう。そうした会が回数を重ねて、信頼感が深まれば、お互いの悩みを相談し合えるようにもなり、気づかいや支え合いが自然と地域で生まれてくることとなります。

（事例）地域を活性化させる高齢者のサークル

白井台地区では、4つの自治会が協力して、高齢者が集まれる場所づくりをしようと呼びかけ、「いきいきクラブたぐり」という団体を立ち上げています。

この団体は、原則75歳以上のかたを対象に、毎月テーマを決めて、介護予防講習や地域の中学生との交流、みんなで歌を歌って談笑など、気楽に参加できる会を目指して活動しています。この活動に参加することで友達もでき、家に閉じこもりがちだったかたが、外に出るきっかけにもなったとのこと。

また、参加している人の中には、自分の能力を活かして、広報や運営などに協力しているかたもいます。

～第5回に続く～ ☎ 社会福祉課 ☎（484）6135



こうほう佐倉 2017年（平成29年）2月1日号掲載

＊地域福祉計画より(全9回)

「おしえて！地域の支え合」

【第5回】子育てを応援しよう

核家族化の進行、就労形態の多様化など、子育てを取り巻く環境が大きく変化しています。今まで子育ては、家庭の育児と公的サービスが中心でしたが、もっと地域ができることもあるのではないのでしょうか。

地域には子育て経験のある頼れる先輩たちがたくさんいます。自分の子育てが終わった世代にも、地域全体で子育てをするという意識を持ってもらうことが大切です。

地域で子どもを育てることで、子どもたちにも自分が生まれ育った地域への愛着が育まれていきます。

【事例】地域で子育てを応援するネットワーク

子育て支援活動を行っている団体や個人等がつながることを目的とした「子育てネットワーク佐倉子育て応援団」というグループがあります。

毎月、「佐倉子育てカレンダー」という情報紙を作成し、子育て中の親が孤立することなく、子育てが楽しくなることを目的に、子育て関係のイベントなどを紹介しています。

また、中志津中央商店街では、乳幼児を連れた親や地域のかたが、気軽に立ち寄りお話しができるカフェが開かれています。子育て中の悩みを抱えた親同士が交流することで、悩んでいることがスッキリしたり、地域のかたと小さい子どもがふれ合うことで、お互いが笑顔になれる場となっています。

☎ 社会福祉課 (484) 6135

→ 第6回につづく



こうほう佐倉 2017年(平成29年)2月15日号掲載

＊地域福祉計画より(全9回)

「おしえて！地域の支え合」

【第6回】絆をつくらう

現在は、さまざまなサービスがお金で買えるような時代になり、人に頼ることを避ける傾向になっています。

しかしそれでも、人はひとりでは生きていけない存在です。時には周囲に「甘える勇氣」も必要ではないでしょうか。困ったことがあったら、小さなことでも周りに聞いてみてはどうでしょうか。

例えば、かつて自宅の調味料が切れたとき、隣の家に借りることは、頻繁に見られた光景だったと思います。

隣近所で気軽に話せて頼める関係になり、お互いを思いやる関係ができると、暮らしやすい地域になると思います。

【事例】近所の有志による見守り・助け合い活動

佐倉地区の栄町町内会には、有志による近所同士の支え合い、助け合い活動を行っているグループ「なごみ会」があります。なごみ会では、毎月1回町内会集会所に集まり、サロンのようにおしゃべりしながら、近所の情報交換をしています。

以前、家の建て替えに伴う引っ越しで荷物整理に困っている会員がいた時は、なごみ会の仲間が手伝い、とても感謝されたことです。普段から声を掛け合い、押しつけではなく、気持ちよくさりりと行動できる関係を大切にしているとのことでした。

☎ 社会福祉課 (484) 6135

→ 第7回につづく



こうほう佐倉 2017年(平成29年)3月15日号掲載

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合い」

【第7回 安全・安心のかけ橋になろう】

自分が住んでいる地域が安全で、日々、安心して生活したいと誰もが思っています。

しかし、地域の安全・安心は行政だけでつくることができません。地域の住民が無理をせず、できることから、安全・安心の輪を広げていくことがとても大切です。

まず、子どもたちの登下校時の見守り活動などから始めて、地域全体で「ただいま」「おかえり」「いってきます」を言い合うことができる関係をつくってみてはどうでしょうか。地域の大人から声を掛けられることは、子どもたちにとってもありがたいことです。物怖じしないでどんな世代の人ともつきあえる子どもたちが育まれていきます。

《事例》小学生の下校時見守り活動

白井小学校の通学路となっている白井台区と大名宿では、毎日、住民が自主的に児童の見守り活動を行っています。この活動は、学校の安全が損なわれる事件が多発したことを受け、子どもたちの安全確保に向けて、地域の住民が自主的に取り組みを始めたとのこと。

活動を通して、白井西中学校の生徒や道で会った人とも自然とあいさつが交わされるようになってきました。

最初は義務感で参加していた人も、徐々に活動の楽しさ、やりがいを感じ、今では毎日かかさずに参加している人もいます。この活動を通じて、地域の安全・安心を自分たちで確保しようという気運が高まっているとのこと。

～第8回につづく～

問い合わせ

社会福祉課 ☎（484）6135



こうほう佐倉 2017年（平成29年）4月1日号 掲載

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合い」

【第8回 支え合い、助け合いに参加しよう】

「顔は知っているけど、話したことは…」。

現在、近所づきあいが薄れていることが懸念されています。近所づきあいがないと、日々の生活で何か困ったときに、手助けを依頼することができない状況につながる恐れがあります。

今、ちょっとした困りごとの相談や何かのお手伝いのような、住民が主体となった地域での支え合い・助け合い活動が注目されています。支えられる人だけでなく、支える人もやりがいや生きがいを感じ、お互いに「笑顔」が増える。そんな活動が地域で一つでも増えていくことを願っています。

《事例》地域で開かれているふれあいサロン

染井野地区では、地域の助け合い活動を展開する「思いやりヘルプサービスそめいの21」というグループがあります。グループでは、毎月第1火曜日に「染井野ふれあいサロン」を開催しています。

サロンは高齢者の引きこもりを防ぐだけでなく、知らない人同士の出会いの場にもなっています。また、運営に携わっているボランティアには、得意な分野で参加してもらおうという姿勢を大切にしています。

ボランティアは無理をしたら続かない、自分達も楽しむというスタンスで活動することが長く続いている秘訣とのこと。そして、ここに来ると、自分も元気をもらっている感じになるとのこと。

～第9回につづく～

問い合わせ

社会福祉課 ☎（484）6135



こうほう佐倉 2017年（平成29年）5月15日号 掲載

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合ひ」

【最終回 違いを認め合おう】



人は、人と関わり合いながら生活しています。地域には、さまざまな個性のかたがいるでしょう。人は誰もがかけがえない存在です。障害のあるかたもないかたも、生き活きと生活できる地域を実現するためには、一人ひとりが「みんなちがって、みんないい」という気持ちを持つ必要があります。

障害について正しく理解するとともに、誰もが相互に人格と個性を尊重し、認め合い、支えあう地域を実現することが求められています。

《事例》誰でも参加できる健康づくり運動教室

市内在住の障害のあるご本人と親の会「佐倉市手をつなぐ育成会」では、月2回程度、健康づくり運動教室「ちゃれんじどフィットネスクラブ」を開催しています。教室は、学生ボランティアなどの協力も得て、運営されています。教室では、「知ってみようと思う気持ちを互いに持っていけば、分かりあえる」というスタンスを大切に、障害者に全く接したことがないかたの参加も歓迎しています。そして、障害のあるかたが、他のかたと関係ができ、地域の中でも自分の気持ちを出しやすくなることを願って活動に取り組んでいるとのこと。 ～おわり～

問い合わせ 社会福祉課 ☎（484）6135

こうほう佐倉 2017年（平成29年）6月15日号掲載

お知らせ

■第3次佐倉市地域福祉計画の中間報告

市では、平成28年3月に、第3次佐倉市地域福祉計画（4年計画）を策定し、施策を進めています。計画の中で、平成28年度・29年度の実績を踏まえ、佐倉市地域福祉計画推進委員会から、中間報告が提出されました。中間報告では、市の事業の取り組み、地域福祉に関する市民意識調査の結果、団体アンケート調査の結果や「地域での支え合い活動」の事例を掲載しています。＊詳細はホームページで。 <http://www.city.sakura.lg.jp/0000018508.html>

☎ 社会福祉課

☎（484）6135

こうほう佐倉 2018年（平成30年）5月1日号掲載